

版画工房アーティーが専門に制作するジクレー版画（デジタル版画）を切り口に、様々なアーティストや画廊にインスタビュアする本コーナー。今回は長野県のヴィラデストワイナリーに伺って、画家・エッセイストの玉村豊男さんに、「ライフアートと版画」についてお話を伺ってきました。



“ライフアート”
玉村豊男

×
Artie
FINE ART WORKS

アーティー 本日はエッセイスト・画家・農園主と様々な顔を持つ玉村豊男さんにインタビューさせて頂きます。最初に弊社で版画をお作りになって15年ほど経ちますが、以来制作した版画タイトルはなんと128点となりました。

玉村 相当な数だと思っていただけけれど、そんなに沢山だったとは驚きました。

アーティー 玉村さんはご病氣されて、それをきっかけに絵を描き始めたのですかね。

玉村 はい。療養中に久しぶりに絵を再開したのです。最初は気持ちが沈んでいたから油絵で暗い絵ばかり描いていました。

アーティー 今とだいぶ画風が違いますね。

玉村 病氣が好転してから初めて白い紙にりんごの絵を水彩で描きました。そこからです、植物を描き始めたのは。朝の光の中で花を見ていると、花びらが光を透過しているのがよくわかるのです。とても綺麗で、この光を描きとめるには水彩が一番しっくりときました。

アーティー 病氣の回復とともに画風も明るくなってきたわけですね。

玉村 そうです。その後、画廊から個展のオフアを頂き、定期的に個展を開催していくようになりました。個展だから原画を販売します。でもね、うまく描けた絵を売れないのです。もう二度とこんな風に描けないだろうと思えますから。でも描く、手放す、それを繰り返すうちに「次の絵はもっと

よくなるだろう」と思えるようになってきました。

アーティー 玉村さんは自分の作品や、ご自身の箱根の美術館にも「ライフアート」という言葉を使われていますよね。これは玉村さんのオリジナル造語でしたよね。

玉村 はい。この言葉には三つ願いが込められています。一つ目が命あるものを描く事。二つ目が日常生活の中で描いていく事。三つ目がそれらを生活の中で楽しんでもらう事。それを総括して僕は自分の作品を「ライフアート」という言葉で表現しています。僕には原稿を書いたり、畑仕事をしたりする日常があって、その中から絵を描く時間も作ります。そうやって生まれたアートだからこそ、皆さんにも日常のなかで楽しんでほしいのです。同じ作品でも、

毎日見ていると時に新鮮に見えたり、元気づけられたり、暮らしの中で一瞬そういう時間を与えてくれるのがアートの力だと思えますから。

アーティー ライフアートは版画制作にどのように関わってきますか？

玉村 原画には「作家がその絵に何十時間と取り組んだ」という絶対的価値があります。

でも原画はひとつだし、その分価格もあげなくてはいいけない。日常でアートを楽しんでもらうには版画が目的に合っていました。僕は最初から原画に忠実な版画制作方法を探していたのですが、それにも理由があります。

朝ガーデンに出て、花を見つけます。綺麗なだな、こんな形なんだという感動に動かされ夢中で描き始めるけど、当然生きている花だから摘んでしまうとどんどん萎れてきます。それとは対照的に、紙の上の花はどんどんと美しくなっていく。勝手だけど、僕は思うのです。「ああ、花の命が紙に移ったのだ。命が紙の上で永遠に残るのだ」と。だからこそ版画には忠実性を求めます。版画化する際、ほかの技法も当たったのですが、再現性を求めるとなるとちょっと難しい点があります。

アーティー 確かに他の技法…、例えば木版画やリトグラフなどと、それ自体でしか表せない表現力はあります。しかしそれらに忠実性・再現性を求めるとなると目的が違ってきますからね。

実際ジクレー版画（デジタル版画）をお作りになっていかがでしたか？

玉村 最初の頃はうまく噛み合わない時もあったけれど、ある時からアーティーさんか



ガーデンのテラスからは長野の風景が一望できる

らの提案で、室内のライトを工房と同じものに合わせたり、僕の癖もだんだんと理解してもらえたりして、最近では2回もやり直して貰うことはなくなりましたよね。最後に色を確認して、これで校了となった時に、僕自身どちらが原画かわからなくなる時があります。この再現性をもってジクレー版画を作れるなら僕にはまさに「最高」という感じですよ。

アーティー それは嬉しいご感想ありがとうございます。9月の松屋銀座での個展は原画や版画ももちろんですが、玉村豊男という人となりを重視した展示と聞きました。本日伺った玉村さんのガーデンや書斎の再現も一部あるとの事で楽しみにしています。

本日はありがとうございました！
（2018年6月 長野ヴィラデストガーデンにて談）

P R O F I L E

版画工房アーティー

美術専門の版画印刷を扱う「版画工房アーティー」。代表の加藤泉は1987年に米ロサンゼルスでシルクスクリーン工房を設立。12年間アメリカンアートの制作に携わる。2001年に帰国後、東京に「版画工房アーティー」を設立。アーティー独自のジクレー版画「アーカイバル®」を商標登録。版画を原画と同等に扱い、作家と工房が相互に意見交換することで、互いの想像力の一歩先の表現力を目指している。制作している版画の8割以上に、モデリングペースト、エアブラシなどの特殊効果を施し、一般的な「版画」の概念を超える、斬新な表現に果敢に挑戦しつづけている。

東京都港区六本木 7-21-22 セイコー六本木ビル 4F
(国立新美術館 正門 徒歩1分)

営業時間：平日9時～17時30分 定休日：土日祝日

Tel：03-6721-1850 E-mail：info@artie.co.jp Web：https://artie.co.jp

玉村豊男（たまむら・とよお）

エッセイスト・画家・ワイナリーオーナー。1945年東京都生まれ。日本画家、玉村方久斗（1894-1951）の五男。1983年より8年間、軽井沢町で生活。その後、病を得たのを機に高校以来中断していた絵画制作を87年より再開し、1989年長野県上田市の「原画廊」で初個展。1994年以後は毎年数回の個展および各地での巡回展を開催。

【展覧会の情報】

「田園の快楽 玉村豊男展」/会場：松屋銀座8階イベントスクエア
会期：2018年9月5日（水）～9月10日（月）

10:00～20:00（最終日17:00開場 入場は開場の30分前まで）

お問合せ先：松屋銀座 03-3567-1211（大代表）

【ヴィラデスト ガーデンファーム アンド ワイナリー】

住所：〒389-0505 長野県東御市和 6027 tel：0268-63-7373

ホームページ：http://www.villadest.com mail：info@villadest.com